

《教育長メッセージ 第8号》

『歌』

みなさんの思い出の歌はどんなメロディでしょう。私は、ふと、小学校と中学校の校歌を思い出すことがあります。歌詞は、とぎれとぎれですが、メロディは続き、途中から鼻歌になってしまいます。



先日、柏ケ谷中学校の開校40周年記念式典があり、柏ケ谷中学校を母校とする来賓の議員さんや地域の方々が校歌を歌う様子を見て、なつかしくなり、その日の帰りに、志津川中学校の校歌を口ずさみました。

「聞け松原の松籟は、清き操を語るらん・・・」

また、私は、毎年、小中学校の卒業式に出席します。子どもたちの呼びかけやことば、歌声に感動します。私は、その時にしか表現できないプライスレスのコンサートだと思っています。特に、子どもたちにとって、同級生と歌う最後の校歌には、聞いているだけでこみあげてくるものがあります。子どもたちは、これから、どんな時に校歌を思い出すのだろうと思うのです。

私は、40歳を過ぎて学校を離れ、その後、戻ったのは有馬中学校の2年半でした。音楽の授業、合唱祭の練習、合唱部の活動などで、校舎から子どもたちの歌声が聞こえると、うれしくなり、よく立ち止まって聞いていました。

学校ですから、歌が得意な子も苦手な子もみんなで歌います。何らかのことで歌えない子もそこにはいて、一緒に歌を感じます。みんなで思いをひとつにします。合唱するその姿が、私はうれしいのです。

有馬中学校の合唱祭の全校合唱は、「COSMOS」という曲です。やさしいメロディで、子どもたちの声に乗ると、体が震えました。今でも、思い出して口ずさむだけで、感動がよみがえってきます。

童謡、学校でみんなで歌った曲、時代時代の流行歌、故郷の民謡など、みなさんの記憶にさまざまな歌が宿っていることでしょう。

そして、なつかしく思い出すことでしょう。

私は、子どもたちにとっても「歌」がそうであってほしいと願うのです。

次回は、『学級』について、私の考えをお伝えします。